



2025年度 認知症の日（世界アルツハイマーデー）のキャッチフレーズ

あなたの地域で 認知症とともに いきいきと暮らす

○認知症の日／認知症月間（世界アルツハイマーデー）とは

1994年「国際アルツハイマー病協会」（ADI）は、世界保健機関（WHO）と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の啓発を実施しています。

また、日本でも2024年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」において、国民の間に広く認知症についての関心と理解を深めるために、毎年9月21日を「認知症の日」、9月を「認知症月間」と定めています。この機会に、認知症について考えてみませんか？

自分や家族が認知症になっても安心して暮らせる地域づくり

高齢化が進めば一生の内に二人に一人は認知症になります。現在、認知症を治す治療はありません。認知症に対してどのように対処すればよいかを考えておく必要があります。認知症の多くはゆっくり進行する病気であって、認知症と診断されたからと言って「急に何も考えられなくなったり、何もできなくなったりする」訳ではありません。認知症であっても時期によつては自分でできることも多くありますし、少しの手助けがあればできることもたくさんあります。このように考えれば認知症は決して恐れる病気ではありません。怖



認知症の
ボランティア活動をして
認知症サポーター医 高見 徹

今年度から、日南病院名誉院長であり、認知症サポーター医の高見徹先生の協力のもと、認知症の啓発や地域のみなさんがつながることができる場づくりなどに取り組んでいます。

出前講座の様子



【みなさんの感想】

- ・地域で集える場所づくりが大切だった。
- ・みんなの顔を見ながら、地域の話をしなが、健康に過ごしたい。

がる暇があれば、今できることをどんどんすればよいのです。認知症を悪化させる要因の一つが社会的孤立と言われています。認知症になっても人の中にどんなに出ることが大事です。高齢になればなるほど認知症の人でも認知症でない人も一緒に定期的に集まれる場を作ることが大切です。そうすれば日南町は認知症になっても住み慣れたところで安心して暮らせる町になっていきます。その最初の取り組みが「認知症を恐れない町」にすることです。現在私は、認知症の出前講座で各地区を回っていますので、要望があれば地域包括支援センターに連絡してください。

認知症サポーター養成講座を開催しました！



講師：認知症の人と家族の会鳥取県支部 吉野 靖子氏
(左から2番目)

8月1日、6日の2日間、「認知症サポーター養成講座」を日南町役場職員69名が受講し、認知症について学びを深めました。

『認知症サポーター』とは、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者のことです。オレンジリングがサポーターの目印です。

